岩見沢市新病院建設基本計画【概要版】

基本計画策定の考え方

新病院に向けた基本的な考え方・目指す姿

基本コンセプト　質の高い急性期医療の提供を維持・強化するとともに、南空知医療圏域住民の生活的価値（QOL）の向上を実現する病院

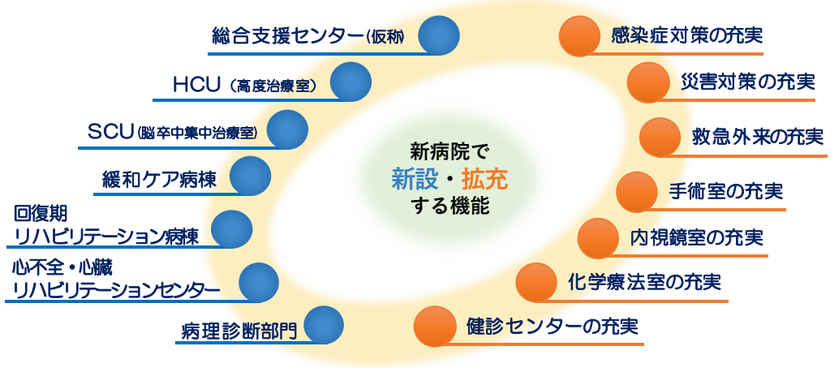
- 患者にとってわかりやすく信頼される病院
- 急性期医療や救急医療を中心とする総合的な診療体制を担う病院
- 安全・安心で快適な療養環境を提供する病院
- スタッフが誇りと働きがいを持てる魅力ある病院
- 健全で効率的な経営による持続可能な病院

新病院の重点医療機能（病院像）

急性期医療の充実	急性期医療提供体制の充実、がん診療連携拠点病院の指定
回復期医療の充実	回復期病棟の設置、心不全・心臓リハビリテーションセンターの設置
専門医療の充実	小児・周産期医療提供体制の充実、精神医療や透析など専門医療の維持
救急医療の充実	HCU(高度治療室)・SCU(脳卒中集中治療室)の設置、二次救急の機能の充実
災害・感染症医療の充実	災害医療提供体制の充実、新興感染症等に対する体制の強化
地域医療連携の推進	地域の医療・介護・福祉機関との連携・機能分化による地域医療の維持

新病院の診療機能

- 臓器別・疾病別などでわかりやすく細分化した**28診療科**に再編
- 急性期や二次救急を担う医療機関としての機能を強化するため、**7つの部門を新設**し、**7つの機能の充実**を図ります。



標榜診療科 28科	
総合診療科	整形外科
内科	産婦人科
呼吸器内科	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
循環器内科	眼科
消化器内科	泌尿器科
糖尿病内科	精神神経科
腎臓内科	麻酔科
緩和ケア内科	脳神経外科
小児科	皮膚科
外科	放射線診断科
呼吸器外科	放射線治療科
血管外科	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科
人工透析・腎不全外科	病理診断科
乳腺外科	歯科口腔外科

新病院の施設規模

- **新病院の病床数**は、入院患者数がピークとなる新病院開院当初（令和10年度）を想定した合計**462床**
- **計画延床面積**は、近年建設された同規模病院の事例を参考に、病院部分の1床あたり延床面積を85㎡と設定した**40,000㎡程度**

一般病床	**388床**
（内訳）	
・急性期一般病棟	310床
・ＨＣＵ（高度治療室）	12床
・ＳＣＵ（脳卒中集中治療室）	6床
・緩和ケア病棟	20床
・回復期リハビリテーション病棟	40床
精神病床	**70床**
感染症病床	**4床**
合計	**462床**

施設整備計画

施設整備方針

患者や家族など全ての利用者にやさしい施設

ユニバーサルデザイン、効率的な動線、プライバシーやセキュリティへの配慮、利便施設の充実

災害や感染症に強い安全・安心な施設

大規模災害や感染症のパンデミック発生時にも医療機能を継続できる建物配置・構造・設備

職員が能力を発揮できる働きやすい施設

ICT/IoT・AI・RPAの導入、教育・研修機能、院内保育、アメニティ機能の充実

将来の変化に対応し地域医療を守る施設

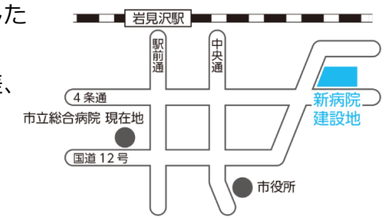
柔軟性や拡張性に配慮した建物構造、全面建替スペースを確保できる配置

経済性と環境に配慮した施設

施設整備費やライフサイクルコストの縮減、自然エネルギーの活用、省エネルギー化

建設地

- 災害発生時や救急搬送におけるアクセスの確保において、国道に面した立地の優位性が高いことから、**「北海道中央労災病院用地」に決定**
- 新病院建設工事期間中の中央労災病院の運営の継続、敷地内の高低差、工事中の安全計画などに配慮
- 交通アクセスの更なる向上に向けて関係機関と協議・検討



駐車場計画

- 患者・来院者用や職員用など、**1,000台程度**の駐車場を整備

構造計画

- 災害発生時にも患者や職員の安全性を確保し、診療機能が維持できるよう、**免震構造**とする

設備計画

- 災害時に備え**最低3日間分の電力・給水**を確保
- **低炭素化**や**ライフサイクルコストの低減**に配慮
- **空調設備**を整備し、快適な療養環境を提供
- **院内Wi-Fi**環境の整備による利便性の向上
- 一般用・職員用など**用途別のエレベーター**を整備
- 防犯カメラの設置や、ICカードなどによる出入り管理などの**セキュリティ対策**
- **エネルギーサービス事業**の導入を検討

関連施設の方向性

新病院と同時に移転

- **市民健康センター**　健診機器や人員の限られた医療資源を有効に活用し、受診者の利便性を確保
- **院内保育園・病児保育施設**　働きやすい職場環境の提供や病児の容体急変時への対応
  →移転後の建物の利活用は今後も引き続き検討

継続検討など

- **現病院施設・跡地**　本館は新病院開院後に解体、**新棟を含む跡地**（約20,000㎡）**の利活用**を検討
- **市立高等看護学院**　**現施設での運営を継続**　講師の移動手段や物品調達方法は今後検討
- **職員宿舎**　民間賃貸住宅の借上げで対応、医師当直室を充実させて整備
- **市立栗沢病院**　老朽化した**病院施設の再整備**に向け、必要な医療機能・適正な規模を検討

岩見沢市新病院建設基本計画【概要版】

部門別基本計画（抜粋）

外来部門

- **ブロック方式**（関連性の高い複数の診療科をブロック化）の採用、**中央処置室・採血室**の設置
- **プライバシー**に配慮した診察室と**わかりやすい表示や動線**に配慮
- 待合表示モニターや呼出システム、コンビニエンスストアなど、**待ち時間を有効に活用できる環境を整備**

総合支援センター（仮称）

- **入退院支援・相談機能を一元化**し、患者や家族を総合的に支援
- メインエントランスに近接した場所に説明ブースや相談室を整備
- 再来患者がより利用しやすいよう外来予約センター機能の導入を検討

総合支援センターの基本機能	
地域連携機能	入院支援機能
退院支援機能	医療福祉相談機能

精神医療センター

- 外来・作業療法・デイケア・訪問看護・相談支援など、多職種連携による精神医療の提供
- 身体合併症などの**救急搬送患者**や医療資源投入量の多い**急性期患者への対応を強化**

救急部門

- 二次救急に特化した24時間救急診療体制を充実させ、救急搬送は全て**救急外来**で一元的に受入れ
- **感染・発熱外来**を設け、専用出入口や診察室の確保など**患者動線を分離**

病棟部門

- **プライバシーの確保**や**アメニティの向上**など療養環境に配慮
- 急性期一般病棟は**最低でも３割以上の個室率**を確保
- 緩和ケア病棟は全室個室、回復期リハビリテーション病棟は１割程度の個室率、精神病棟は8室以上を個室とする
- **新興感染症等**について、感染症病床またはHCU個室で、拡大期は感染症病床を有する一般病棟全体で対応

【一般病棟①】40床	【一般病棟②】40床
【一般病棟③】40床	【一般病棟④】40床
【一般病棟⑤】40床	【一般病棟⑥】40床
【一般病棟⑦】34床＋【SCU】6床	
【一般病棟⑧】36床＋【感染症】4床	
【HCU　　】12床	
【緩和ケア病棟　　】20床	
【回復期リハ病棟　】40床	
【精神病棟　　】70床	
合　計 462床	

手術部門

- **バイオクリーン手術室**・**日帰り手術室**を含む全7室を整備
- **手術支援ロボット**による内視鏡手術など、低侵襲で安全な手術を実施

薬剤部門

- 新たに**院外処方を導入**し、病棟薬剤業務や入院時支援など対人業務を充実

内視鏡部門

- 健康診断の胃内視鏡検査にも対応し、プライバシーに配慮した**内視鏡検査室を5室程度整備**

化学療法部門

- リラックスした環境で抗がん剤治療を受けられる**20ベッド程度の化学療法室を整備**

血液浄化センター

- **65ベッド程度の透析室**を設け、快適な透析治療環境を整備

リハビリテーション部門

- 急性期リハビリテーションだけではなく、回復期や緩和期などのリハビリテーションも充実

栄養部門

- 調理方式は**クックチルを導入**し、クックサーブと併用

健康診断部門

- 新病院内に併設し、病院内の検査・画像診断機能を活用して**健診・検診機能を強化**

共用・利便施設

- 院内で快適に過ごせるよう、**コンビニエンスストア・喫茶スペース**などを整備し利便性を向上
- 職員が働きやすい環境として**院内保育園**を整備し、定員の拡充を検討
- **院内Wi-Fi環境の整備**や癒し・安らぎを提供する**ホスピタルアート**の導入を検討

整備・運営計画

医療機器・什器備品整備計画

- 新病院でも**継続して使用できる機器の移設**や**部門間での共同利用**により事業費を抑制
- 新病院開院時に投資額が集中しないよう、**調達時期を分散**

情報システム整備計画

- 電子カルテシステム（H29導入）は**令和7年度に更新**し、新病院でも引き続き運用
- システム更新後、中央労災病院の情報システムとのデータ統合を実施
- ICT／IoT・AI・RPAなどの次世代先端技術を活用した**スマートホスピタル**を目指す

物流管理計画

- 各部門へ医薬品・診療材料などを安定的に供給するため、物流管理システムで適切に物品を管理
- SPD業務委託による人手搬送を基本に、**機械搬送設備**の導入も検討

業務委託計画

- 経営や業務効率化の観点から、委託範囲の見直しや内製化を検討
- 将来の人口減少による労働力不足を見据え、**関連性の高い委託業務の包括化**も検討

人員計画

- 新病院の**診療機能・規模や医療体制を実現**するために必要となる**医療スタッフを確保**
- 職員が働きやすい環境の整備

整備手法とスケジュール

整備手法

- 施工者を早期に確保するため、実施設計段階から施工者が技術協力で参画する**「ECI方式」を採用**

整備スケジュール

- ECI方式を前提に**令和10年春の開院**を目指す
- 竣工後3か月以上の開院準備期間を確保

事業収支計画

概算事業費と財源内訳

- **新病院建設事業の概算事業費は、総額344億円**
- 安定した病院経営を維持するため、可能な限り事業費を縮減
- 財源は企業債のほか、国や北海道の補助金を最大限活用

(1)設計・監理費	14.6 億円
(2)建築工事費	242.8 億円
(3)外構工事費	5.2 億円
(4)解体経費	11.9 億円
(5)医療機器	45.0 億円
(6)什器備品	5.0 億円
(7)情報システム	14.2 億円
(8)事務費など	3.3 億円
(9)移転費など	2.0 億円
全体事業費	344.0 億円

事業収支シミュレーション

- 開院2年目までは移転費用や減価償却費などの影響により赤字
- **開院後3年目以降は黒字化し、経営が安定する見込み**
- 医療需要の変化に応じて規模を見直すなど、持続可能な経営を維持